

poco

ZEFIRO

カトリック桂教会広報誌

Vol. 28

2026年 復活祭号

編集・発行

カトリック桂教会広報部

主のご復活おめでとうございます

弟子たちにとっての復活

京丹ブロック担当司祭

瀧野正三郎神父



ミケランジェロ《キリストの復活》、1514年作
大阪・関西万博で公開。ルネサンス期の至宝

春が来ると、冬の間死んだようになっていた木や花がはえ出て来て、見違えるようになります。私たちの回りでも、春になると、冬には見られなかった事が起こります。

ちよつと、自分たちの回りをよく注意して見ると、今まで私たちが気づかないでいた事が、たくさんあります。

普段からもつと外に出て、自然を観察したいものです。

イエスが十字架にかけられて殺された後、弟子たちは、こわかったので、それぞれどこかに隠れていました。

しかし、しばらくたつと、弟子たちは人々の前に現われて、みんなの見ている前で、話すようになりました。

いったい、弟子たちに、何が起こったのでしょうか。

イエスが十字架にかけられて殺された事によって、弟子たちは、ちょうど冬になると枯れて死んだようになる木のように、元気がなくなっていました。

でも、春になると、死んで枯れてしまったような木からも、新しい芽が顔を出すのと同じように、元気がなかった弟子たちの心に、かすかな希望がわいてきました。

イエスが死なれた事によって、すべてが終わったとは思っていませんでした。

何かが起こる事を、期待していました。

墓が、からっぽになっているのを見ても、すぐにイエスが復活したとは思いませんでした。

でも、この出来事によって、こわくて隠れていた弟子たちの心に力がわいてきました。

ちりぢりになっていった弟子たちも、だんだんと集まってきて互いに励まし合うようになりました。

こうして、弟子たちはみんなの前で、公に話すようになりました。弟子たちは人々に向かって、「イエスは復活した」と話し始めました。

どうして、あれだけこわくて小さくなっていった弟子たちが、急に元気づくまでに、変化したのでしょうか。

イエスは、弟子たちの望みに答えず、むしろ期待をうらぎって死んでしまいました。

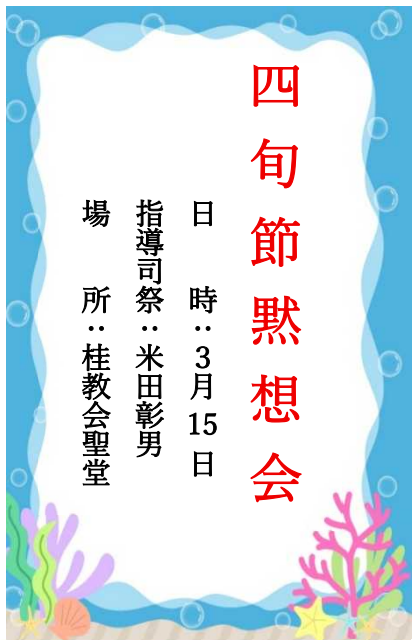
しかし、弟子たちは、そこで希望を見つけ、自分たちが、イエスにかわって立ち上がるべき事を知りました。

四旬節黙想会

日 時：3月15日

指導司祭：米田彰男

場 所：桂教会聖堂



3月15日、ドミニコ会司祭、米田神父様をお迎えして、四旬節の為の黙想会がありました。

米田神父様のご紹介



米田 彰男

よねだ あきお

1947年 松山市生まれ。愛光高校（スペイン系・ドミニコ会創設）在学中、神父になることを決意。

漂泊の5年の間、今は無き『蟻の町』（東京都江東区）等で働く。

その後、信州大学理学部を卒業したが、さらに十数年、カナダのドミニコ会哲学学院、スイスのフリブール大学等で哲学、神学、聖書学を学ぶ。帰国後25年清泉女子大学でラテン語、ギリシヤ語、聖書学を、聖アントニオ神学院で秘蹟論論（特にミサ）を講義。現在カトリック司祭。

著書に『神と人との記憶・・・ミサの根源』『寅さんの神学』『寅さんとイエス』『イエスは四度笑った』などがある。

講話

今回の講話は、米田神父様が大学生に講義するような難しいお話を、私たち信徒には分かりやすい、ユーモアを交えてお話ししてくださいました。また私たち信徒に、米田神父様の著書『イエスは四度笑った』『寅さんとイエス』を夫々70冊プレゼントしていただき、講話はこの本の中からお話していただきました。



1970年代に「ユダの福音書」というものが、ナイル川流域の土の中に埋もれていたところを発見された。

これは3、4世紀ごろに書かれた写本と思われるが、なんと、その書を書いたのは、福音書でイエスを裏切ったとされている、イスカリオテのユダという事になっている。

そして、この写本は後に異端とされた一人のグノーシス派の者によって書かれたという。

ところで、4つの福音書の中にもユダがイエスを裏切った、という表現はないという事であるが、ユダの福音書によると、ギリシヤ語で使われている言葉の意味からすると、ユダはイエスを裏切ったのではなく、権力者に引き渡したという事、だそうで・・・

さて、この写本では4度イエスが笑った、とい

う事が書かれているそうである。

その一番目の笑い、嘲笑の笑いの対象がミサ！
何分、グノーシス派によって書かれた聖書なので。

次に、口から人の中に入ってくるもので、人を汚すことができるものは何もない。人の中から出てくるもの（厠に出ていくあれ）が人を汚す、とイエスは言う。

また、「情欲をもって女を見る者はだれでも、すでに心の中で、女を姦淫したことになる」とも言われる。そうになると、ある程度の年齢に達した男性ならば、誰も罪を免れないのではないか？

では何故、イエスはそのような事を言ったか？
それは、法を無制約に拡張し、法自体を人間にとつて実行不可能なものとするためではないか。

法、当時の人を縛りつけ、苦しめていた法を無力にすることで、法の為に、苦しみ、泣いていた弱い立場の者を、守ろうとしたから、と考えられはしないか。そこにイエスらしいユーモアがありはしないか、というのです。皮肉、してやったり、という笑いが隠れているように思える、というのです。

また、イエスの食事の場面からも、笑いが感じられる。イエスが大食漢の大酒のみであるという風評があった、とマルコの福音書の中にも書いてある。最後の晩餐の時、復活後のガラヤ湖畔での朝食などの場面からは、明るい笑い声が聞こえてくるように思われる、と言う。

正典福音書、書かれた古い順に、マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネの福音書には、イエスの怒り、苦しみ、

悲しみ、喜びが、ギリシャ語の言語においても明記され、表現されている。

しかし、イエスの笑いは一度も語られていない。では、イエスの四度の笑いは、いったい何を意味するのか？

イエスの笑いを追求することを通じて、イエスの人間味のあるところ、破天荒なところが、見えてくる。その姿は、ふうてんの寅さんと相通じるところがあるのではないか？という事でした。

最後に、アンテイオキアの聖イグナチオは、「神は御子イエスによって、ご自分を現わされた。イエスこそは沈黙より出た神の言葉（ロゴス）である」と。

2時間近くにも及ぶ講話を終わられた後、質疑応答などがあり、ミサへと続きました。

米田神父様も80歳近くになり、自分も、だんだん



ユーモアを交えながらお話され、ご自分の著書も難しいけれど、途中でやめず最後まで読んでほしい、と何度も念を押して勧めておられた米田神父様

物忘れ、トイレが近くなる、など弱ってきたとお話されていました。

ご高齢の身で、長時間にわたるお話、お疲れさまでした。そして本当に有難うございました。

信徒の皆さん、米田神父様から私たちにプレゼントされた二冊の本、是非読んでください。

読めば読むほど面白くなってくると、米田神父様は仰っておられました。また、難しいからと言って途中で読むのをやめしないで、最後まで読んでください、と何度も言っておられました。買えば高価な本をいただいた私たちは、ご厚意を無駄にしない為にも、神への理解を深める為にも、くれぐれも積ん読？にならないよう、頑張ってお読みください！

四旬節第四主日 ミサ

キリストはあなたを照らされる（エフェソ5・14）



説教

生命について、神の国、あるいは復活、永遠の命とは何だろう、ということになるのですが、イエスはこういうことも言っているんですね。

これはルカの福音書の中に『神の国というのはあなたたちの中にある。』これはギリシヤ語で書かれているのですが、色々な解釈がある。

ある解釈では『あなた方の真ん中に立っているイエスこそが神の国である』

あるいは『神はあなたたちの精神生活の中にある』という解釈もある。

『あなた方の真ん中に立っているイエスこそ、神の国である』という解釈の中に素晴らしいものがあるんですね。

何々の中に・・・というギリシヤ語『エントス』という使い方を調べると、古い文献の中に、矢の中にある。矢の届くところにある。

すなわち、射程距離の中にある。あるいは「葡萄酒の蓄えが彼女の中にある」とある。これはどういう意味だろうと調べてみると、『彼女の手の届くところにある』。すなわち『神の国とはあなたたちの中にある』と言っているんですね。例えば人たちが難行苦行してやっと手に入れるようなものではなく、また、はるか遠い彼方にあるもの



でもなく『あなたたちの毎日の生活の中にこそ神の国はある』ということをおっしゃる。

また他の箇所では、イエスはこのようなことも言っておられます。

『神の国は次のようなものである。人が地に種を撒い

て夜昼寝たり起きたりしていると種の方では芽を出して成長する。蒔いた人が知らないままに、おのずと大地が実を結ぶのである。まずは青草になり、そして穂ができる。そして穂の中に実ができる。実が実ったときになって人が鎌を入れる、それが収穫というものである』

すなわち、神の国と云うものはですね、お百姓さんが種を撒いてしまえば、あとは昼寝をしていても自然が育ててくれる、ということですね。

イエスと我々の違いというのは、神が作った自然と、神への信頼の深さが違うのですね。

空の鳥の話もですね、いたるところにイエスの大らかな信頼と、神様と神様が作った自然に対

する大きな信頼、それに任せていけば、なんだかんだとやらなくても自然に、私たちは神の国に今、正に入っていくことができる、とお話していただきました。

紙面の都合で、長時間に渡るお話の内容を、全部載せることができませんでした。広報部)

寄贈頂いた著書

「寅さんとイエス」と
「イエスは四度笑った」



寅さんとイエスから
読んでね。
でないといけないよ

なるほど!

